

第40回「環境賞」に5件

地球規模の環境保全期待

「定期航空路線を利用した温室効果ガスのグローバル観測」

CONTRAILプロジェクトチーム
(日本航空/ジャムコ/JAL財団/国立環境研究所/気象庁気象研究所)



観測には日本航空のボーイング747-400型機(2機・退役済み)及び777-200ER型機(5機・計7機が使用されてきた。このうち777-200ERの1機にはCO₂濃度測定示すロゴが塗装されている)

高頻度に観測、データ取得

【環境大臣賞・優秀賞】

将来の地球温暖化の正確な予測には二酸化炭素(CO₂)などの温室効果ガスの濃度分布監視することが不可欠である。現在世界では100カ所あまり

の観測所で常時観測が実施され

ており、わが国でも気象庁や国

立環境研究所、東北大などがあ

る。これらの観測により化石

燃料燃焼などによる8GtC/

年(GtC/年)が大気中に残留

し、残りのCO₂は森林や海洋

に吸収されていることが明らか

になっている。

しかし、どの地域でどれだけ

のCO₂が排出・吸収されてい

るかの見積もりにはまだ大き

な不確定性が残されている。こ

の理由のひとつは観測地点の偏

り、高額な費用を要するチャ

ータ機を用いた航空機観測はご

く一部で実施されているにすぎ

なかつた。

定期航空機にCO₂濃度測定

装置を搭載すれば、世界の広い

まで観測の空白域であつた東南

洋の観測が実現され、これ

が期待されている。

このCO₂濃度測定示すロゴが塗装されているにすぎ

なかつた。

定期航空機にCO₂濃度測定

装置を搭載すれば、世界の広い

まで観測の空白域であつた東南

洋の観測が実現され、これ